



## パワー浜松ロータリークラブ週報

クラブテーマ: 全員参加で繋がりをより深めあおう

パワー浜松ロータリークラブ (2015-16年度 会長: 知久 武 幹事: 鈴木 尚孝)  
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークラクトシティホテル浜松 4307号室  
Tel: 053-452-0800 Email: info@power-hamamatsurc.jp  
http://www.power-hamamatsurc.jp

創立: 2002年10月22日 認証伝達式: 2003年4月29日 スポンサークラブ: 浜松中RC

### 第590回例会 7月21日 AM7:30~8:30

オークラクトシティホテル浜松3Fチェルシーの間

- 司会: 堀内善弘 加藤ひとみ ●点鐘: 知久武
- ゲスト: 米山記念奨学生 于春蘇さん
- 議事: 幹事「職業奉仕的観点からの地場産業考察(繊維産業)」

〈出席報告〉

会員数 80名  
出席数 65名 出席率 81.25%  
前々回出席率 88.75%

#### ■会長挨拶

本年度2回の例会の出席率がよくて嬉しく思います。  
先日、エクシブ浜名湖に泊まった時に、ザ・カハラというホテルがエクシブグループだと知りました。ザ・カハラはハワイ・ワイキキから車で20分ぐらいの高級住宅地にあります。のんびり、ゆったりした素晴らしいホテルで私は大好きです。



#### ■幹事報告

- ・本日理事会終了後、理事会があります。
- ・来週はガバナー公式訪問ですので、出席をお願いいたします。
- ・駐車券は、例会・理事会のみ対象となります。

#### ■委員会報告

地区国際奉仕委員会 西尾文克会員

7月18日の土曜日、派遣学生5名の派遣が決まりました。  
受け入れはアメリカ、フランスより女性が2名来ます。  
親睦委員会 鈴木直幸会員

9月12、13日の一泊例会の出欠確認を次週28日より

行います。

前年度出席奨励委員会 森上達幸会員

前年度最終例会で100%出席表彰者2名の漏れがありました。2年連続牛田悟さんをこの場で表象させていただきます。12年連続の野田美代子さんは本日お休みですので後日表象いたします

高貝亮会員

6月5日から4日間世界大会に出席してきました。

大変感激し、感動して帰ってまいりました。来年はソウルですので、皆さんと一緒に行けたらいいなと思っています。サンパウロへは、カタール航空のドーハ経由で行きました。飛行機に乗っている時間だけで24時間かかりました。大会は日本語の同時通訳もついています。14500人の参加者、日本からは800人参加されました。

#### ■スマイル

前年度出席奨励委員会 池田龍郎会員・森俊彦会員

当方の確認不足で野田みよ子さん、牛田悟さんにご迷惑をおかけしました。申し訳ありませんでした。

高貝亮会員 職業奉仕委員会一同

本日の卓話をご清聴いただき誠に有難うございました。

長谷川隆是会員

本日、職業奉仕PJとして卓話させていただきました。拙い話でしたが伝わりましたか?もし浜松の伝統産業にご興味持たれましたら、ぜひ一度当社にお越しください。現物をご覧いただけます。

米山記念部会 小澤邦比呂会員、村田誠会員

8月1日(土) 駅南サーラ四川飯店で米山奨学生于春蘇さんの歓迎会を行います。多くの皆さんの参加をお願い致します。

■ 議事

「職業奉仕の観点からの地場産業考察（繊維産業）」  
 職業奉仕 PJ 長谷川隆是会員



当地浜松を中心とする遠州は繊維産業、楽器産業、輸送機器産業の三大産業をその礎としていると浜松市の資料にはあります。

遠州の繊維産業の歴史は古く、江戸時代中期にまで遡ることが出来ます。当時は綿花栽培、紡績の工程すらも当地にあったそうです。その後、豊田佐吉の自動織機などが分かりやすい例ですが産業の効率化や合理化などの側面、また織布や染色の新しい技法の導入により遠州繊維作業は深化していきました。ですが、昭和 50 年代後半より斜陽産業として認識されることが多く、実際に繊維産業の事業所数、従事者数、市場規模の何れもが低下しているという事実があります。

その原因の一つに産業の水平分業体制が挙げられます。繊維産業ではそのサプライチェーンを川の流れに喩え、製造に類する部分を川上、卸売・流通に関わる部分を川中、小売に関する部分を川下と呼んでいます。この中で遠州繊維産地として川上から川中に掛ける工程が水平分業されています。これは資本集約的な側面と労働集約的な側面の二面性を持つ繊維産業であるが故というのが一つの理由で、もう一つには官制企業や国策企業がほぼない状態の中で民間のみにて産地形成がなされてきたという歴史的経緯にあります。

私の会社は上述のような環境下において産元卸売商として川中に存在しています。そして川上各社に賃加工を依頼し、自社よりも川下へは卸売りという形で商流を繋いでいっています。その役割により、当方の

会社の存在は産地性を形成する一つの重要なパーツであると認識しています。この自社の立ち位置こそが産地という意味合いでの地域を強く意識した場合の当方の職業奉仕の要の部分となります。

もちろん繊維の専門家として商売を通して社会貢献することを言うまでもありません。ですが、地域の会社であるという側面においては水平分業化された産業に立て串を通す役割こそが重要であると考えています。

ですが、川上たる製造者が自社ブランドを訴求し川中の存在を意識しなくなる時代がやってきた場合、当方の認識する地域産業への職業奉仕意識は存在しなくなることになりすし、そうなることが個々の事業者にとっては理想的な未来であるとも考えています。

また、時代の進展の中で水平分業化された川上行程が垂直統合するようなことがあれば、その際にも同様に当方の職業奉仕意識は存在しなくなります。

工程	遠州	産業形態	県伝統工芸	製品
綿花栽培	×	労働集約 農業		
紡績	×	労働集約 製造業		
織布	◎	資本集約 製造業	ざざんざ織	遠州織物 武禰衣(むしや)
染色	◎	資本集約 労働集約 製造業	駿河和染 浜松注染そめ	注染手拭い
縫製	△	労働集約 製造業		
産元卸売 (一次問屋)	○	サービス業		浜松本染ゆかた 武禰衣(むしや)
二次問屋		サービス業		
小売店		サービス業		

産地が産地である限り、恐らく永久について回る問題意識と課題であるとは思いますが、自身の職業人としての時間を上記の問題への取り組みの中で果たしていこうと考えています。

